～中部横断自動車道の活用を考えよう～

市民ワークショップ 1 のまとめ

2015年２月15日（日）

２月15日（日）、北杜市役所会議室にて、第１回「北杜市市民ワークショップ」を開催しました。現在、北杜市では中部横断自動車道を見据えたまちづくりビジョンの達成に向け、道路プランの検討をしています。これまで４回の関係者ワークショップを開催し、専門知識をお持ちの方からご意見をうかがいました。今回は、一般の市民の皆様のご意見をお聞きするために、無作為抽出でご案内をし、24名の皆様にご参加いただきました。

最初に、事務局から説明した「これまでの検討経緯と概要」についての質問やご意見を書き出し、全体で質疑応答を行いました(p2～)。次にくじ引きで席替えをした後、周辺の地域資源について事務局から紹介しました。昼食を挟んで、グループごとに「大切にしたい地域の宝物」を提案し、発表していただきました(p10～)。くじ引きでグループを替わった後、道路構造や配慮事項などについて、関係者ワークショップの結果も踏まえて事務局から報告しました。それらを聞いた後、「地域資源を活かし、新しい北杜市の魅力を生み出す道路構造の工夫やアイデア」をグループで出し合って発表していただきました(p12～)。その後、それぞれ良いと思った提案５つを選んで、シール投票していただきました(p12)。結果を全体で確認した後、市民ワークショップのまとめ方について事務局から説明しました。最後に、各自ご意見カードをご記入いただき(p15～)、市民ワークショップを終了しました。

今回は、高校生や大学生の方の参加も多く、年代を超えていろいろな意見を持っている方がいることをお互いが理解し、話し合うことができて良かったという感想を多く頂きました。環境に対する意識の高さと道路に対する期待の両方を考えながら道路プランがどうあるべきか、北杜市の将来をどう描くべきか。より良い北杜市を目指し、今後も議論を重ねて参ります。

次回もよろしくお願いします。

＜市民ワークショッププログラム＞

１：はじめに

第１ラウンド

２：中部横断自動車道の検討経緯と概要について説明します
３：説明に対する質問やご意見を質問シートに整理して下さい
４：グループでまとめた質問を全体の場で確認していきます

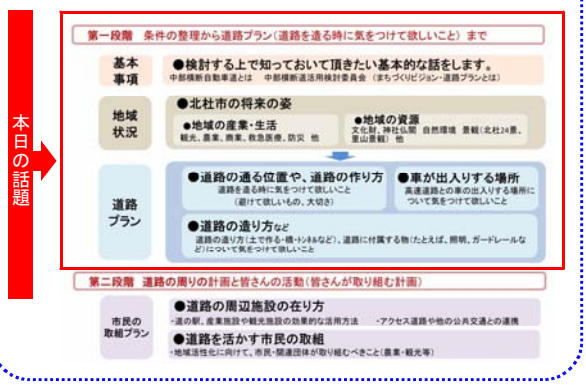
第２ラウンド

５：現状の地域資源について説明します
６：本当に守り、活かしたい地域資源について提案して下さい
７：グループの話し合いの結果を全体の場で発表します

第３ラウンド

８：関係者ワークショップで検討したことについて説明します
９：地域資源を活かし、新しい北杜市の魅力を生み出す道路構造を考えます
10：グループの話し合いの結果を全体の場で発表します
11：結果について全体で話し合いましょう
12：市民ワークショップのまとめ方について確認します
13：まとめ

ワークショップで話し合っていただく話題



設問に対する質問やご意見を整理し、全体の場で確認します

道路計画、スケジュール等に対する質問をポストイットに書き出していただき、出された質問に対して全体の場でお答えしました。

１．検討の経緯や進め方のついて

ワークショップについて

・ワークショップ(市民)の本当の目的は何か？ねらいは？
・市民ワークショップの効果と成功例はあるのか？
・市民ワークショップはこれからも何回かあるのでしょうか。
・市民ワークショップはまだあるのか？
・活用検討委員会の構成メンバーは？
・そもそも今日のワークショップは、中部横断自動車道新設が前提となった上で行われるのか。

▼

北杜市：我々としては市民の皆さんのナマの意見を多く取り入れたい。本音を言うと、市民の皆さんの声をバックに国に強く言いたいところがある。無作為抽出でお願いした市民ワークショップの参加者に一から議論をしていただくのは時間的にも難しいので、まずは関係者ワークショップ、関係者とは言っていますが全員が市民だが、その方達に４回集まって議論をして、たたき台を作っていただいた。今回はたたき台を基に追加、補足をしていただきたいというのが目的である。今回は道路プランや道路に対する配慮、どういった道路が良いのか、インターチェンジなどをテーマにしているが、ビジョンの達成など市民が取り組むべきことが今からまだあるので、また同じような形で関係者ワークショップを開催し、そこでたたき台を作っていただいて、こういう形で市民ワークショップを開催したいと考えている。具体的な日程については予算のこともあるので、４月以降にしっかりと考えて皆さんにお願いするような形になるかと思う。

今日のワークショップは道路整備が前提となっている。従来、北杜市合併以前の峡北地域の８つの町村の時代から、中部横断自動車道については国に対して要望を上げてきた。この道路の必要性は地域の願いという形で市政で位置づけられている。

活用検討委員会のメンバーは、学識経験者３名、大学教授、市の環境審議会、土地利用審議会という諮問機関の代表者、各８町の代表区長、国、県、市の関係する部署の担当者、商工会、観光協会の代表者の19名で構成して検討していただいている。

ファシリテーター：今回は住民基本台帳からの無作為抽出で1,000人と高校生全員、全体で3,000人の方にお願いをして、25名に応募していただいた。こういった形の会議の仕方は2006年から日本で300事例以上行われている。道路に関しては三鷹市で、外環道と中央道のジャンクションをテーマにやった例がある。それは国と東京都と三鷹市でやったが、うまくいった例だと思う。是非ここでも成功例を作っていきたいのでお願いしたい。

無作為抽出では、今までこういう場に出て来なかった方に出ていただける。直接利害関係じゃない、少し離れた方になるので、そういった意見を出していただくことが出来る。自由に参加できるワークショップには利害関係の強い方が出て、そういった意見が出る。どれが良いとか悪いとか、どっちが上とか下ではなくて、いろんな形で市民の意見を出していただく場が必要だということで今回のワークショップをやっている。

既存道路との関係、中部横断道路の必要性

・「中部横断自動車道より国道141号線の拡充の方を優先した方がいい」との意見も多くあったようですが、それより中部横断自動車道の今のルートが選ばれた理由は何ですか？生活道路としての利便性の向上、コストとの関係を含めて教えてください。
・旧清里有料道路を通す案はどうなったか？
・既存の国道141号線を拡幅して改善する案はどうなったか？
・北杜市は交通には恵まれていると思う。鉄道（中央線、小海線）、道路（中央高速、国道141号）があり、これ以上必要があるのか。

▼

北杜市：中部横断自動車道が高速道路としてどうなのかというご意見があるが今、長野の佐久に向かうには国道141号線の幹線が１本で、ご承知のようにカーブも多いし勾配がきついという状況である。これに対して新たに起終点を同じとする高速道路が１本出来るということは、２本の道路があるということになる。141号の改良というご意見も確かに出ているが、市としては国道141号を高速道路に改良するのは難しいと考えている。道路の勾配も急であるし、道路沿いに多くの住宅等がある状況で今後、高速

道路並に幅を広げて勾配を直すことになると、道路沿いの方々への影響が大きなものがある。新たな道路を造ることによって、新たな路線にかかる住宅への影響も当然考えているが、今の現存の道路を改良して１本だけを残すよりも、高速道路１本と生活道路としての幹線が１本、２本あることによって交通の利便性を上げていきたいと考えている。高速道路があることによって、昨年の大雪では県外からの除雪車が来たが、通行止めの状況でも高速道路を緊急車両は通行できて、救援しなければならないところにはたどり着くことができた。幹線道路は住んでいる方達が生活のために使うので、高速道路と両方がないといけない。そういう意味で市としては２つの路線が防災上の観点、様々な交通利用の関係から必要だと考えている。今回も活用検討委員会、ワークショップで中部横断自動車道に対して、市としてより良いものを入れた高速道路の整備を前提としてやっているというのが事情である。そういう様々なご意見をいただいておりますので、その中で市としての考えをしっかりお伝えしながら対応していきたいと考えている。

確かに北杜市にはＪＲあり、国道あり、高速道路ありという形である。ただ北杜市は８つの町村が合併して出来ている、県内でも一番広い面積を有する市となっている。今の交通網は20号を始めとする諏訪方面に抜ける道、それがＪＲと平行する旧甲州街道の幹線、それから141号で佐久に行く道、その２つの道が主な幹線になっている。今の141号の実態で、日常的な部分では今の交通量は満たしているかもしれないが、防災面やピーク時の問題、国土におけるネットワークの交通量の縦貫の関係もある。また南部区間の開通による静岡からの流入等を考えた時に、こちらの北部区間についても整備の必要があるのではないか、人が動くことによる北杜市の活性化も図れるのではないか、そういうことも含めて必要な施設だと考えている。

まちづくりビジョンとの関係

・北杜市まちづくりビジョン４つの中で、「環境・景観」分野と中部横断自動車道の関係を聞きたい。他の３つの分野、「くらし」「地域活性化」「観光」とは結びつけて考えられるが…。
・まちづくりビジョンにおいて、分野別で特に優先している分野は。「環境・景観」「くらし」「地域活性化」「観光」の優先順位はあるのか？
・中部横断自動車道が整備されると、北杜市のどんな問題が解決されるのですか？
・北杜市民が何を計画して協力できると考えているのか？（まちづくりビジョンについて）
・北杜市の将来像ってどんな像ですか。

▼

北杜市：北杜市の現状の課題については、大きな４つの分野で整理している。それらの分野のまちづくりを進めるにあたっては、高速道路というツールを有効に使っていきたい。有効に使うにはツールである高速道路を、いかに北杜市のためになるように造るのかを検討するのが市の役目だと思っている。それを市役所だけで決めるのではなく、市民の方々が、例えばインターチェンジをどういう場所に造ればどう使えるかを検討する中で、どこに必要かの意見をとりまとめていくことである。今は現実的にインターチェンジは２つという話があるが、市としては必要なものは必要なものとして考えて、市民の声を市の考えとして事業者に伝えていく。

分野についての優先順位は基本的につけていない。ただ北杜市の豊かな自然環境、景観という様々なご意見をいただく機会が多い。道路を造ることによって景観を損ねることのない、景観を使った道路を市としての考えとしてまとめていきたいと思う。

この活用検討委員会では、既存のまちづくり計画の上に総合計画があり、その計画をいかに実行していくかの理念として、まちづくりビジョンを検討したものである。

道路整備基本計画との関係

・山梨県や北杜市の現在の道路網の問題点、課題をどのように把握していますか？その課題解決のために、この中部横断自動車道はどのように役立ちますか？北杜市では平成26年２月に「道路整備基本計画」をまとめているようですが、それとの関連で説明して下さい。

▼

北杜市：現在、８町村が合併した結果が北杜市になっている。道路は、それぞれの集落の中心を拠点としてネットワークが広がっていくのが自然な成り立ちで、高根町、長坂町、小淵沢町それぞれの役場の周辺を中心として広がってきたのが現在の道路形態である。既存の道路の位置づけを整理して、どういう整備をしたら市民にとって使いやすいかという考え方を整理したものが整備計画である。今後、それらの整備計画を細分化する中で、どこの道路を改良するのかという優先順位を検討する計画の詳細を進めていかないといけないと思っている。中部横断自動車道はその市道とは別に、幹線として北杜市を通過する道路になるので、中部横断自動車道のインターがどこになるか分からないが、それらのインターを中心として、既存道路にどのようにうまく使えるようにするのかを検討するのが今後の課題になる。中部横断道路がどこにあれば北杜市として有効なのか、さらに今の道路とどう使っていくのかは今後検討していくことだと思う。

パブリックコメントについて

・資料2-1、「３．北杜市の将来の姿をつくるまでに行ったこと」において、北杜市の将来の姿（案）に対する意見募集（パブリックコメントや説明会において）で集まった意見はどのようなものだったか。まとめられた結果を知りたい。（賛成意見、反対意見の量的関係など）

▼

北杜市：パブリックコメントは、まちづくりビジョンについてのご意見をいただきたいという目的で実施したが、「中部横断自動車道がいる」「いらない」という意見がほとんどだった。いただいた意見については、中部横断自動車道の事業を進めている国土交通省に市民からの意見として責任を持ってお伝えしている。

反対グループの意見について

・反対されているグループの意見も知りたい。

▼

北杜市：「八ヶ岳南麓については高速道路はいらない」「141号の改良で良いのではないか」というご意見をいただいている。そういう意見の中で、市としては、「中部横断自動車道は必要な施設だ」ということで進めている。

住民の関心度について

・地域住民の関心度、ルート帯に近い住民と市の西部又は南部等（白州、武川方面）の住民の関心度は。

▼

北杜市：ルート帯の中にある長坂、高根、大泉、須玉の皆様と、白州、武川方面の皆様の関心の温度差はあると思う。関係者ワークショップに参加されている白州、武川の方からは、白州、武川方面へのアクセスを考えて欲しいという意見も出ている。県道整備については県に要望することになり、その際には強い後押しとなるので、そういった意見を是非出していただきたい。

２．道路計画の概要について　（ルート、構造、運営方法等）

ルートについて

・何故、北杜市側は１km幅に限定しているのか。
・ルート決定にはどのような検討がされたのですか（カーブが多すぎる気がする）。
・現在のルートは誰が決めたのか？
・第１回、第２回頃に提案されたルート案より南下している。これは何故か。
・現在のルートは誰が承認して公になったのか。
・ルートは１km範囲内で確定されるのか？
・何故、八千穂～長坂なのか。本来の目的から考えたら須玉、明野付近にJCTにすべきでは？
・141号線に沿っての高速道路であれば、長坂JCTからではなく須玉ICからの方がより短時間で移動できるのではないか。

▼

北杜市：１km幅については、国で行っている計画段階評価の中でルート帯という、ルートが出来る範囲として設定している。これについては長野県側は３kmの幅、山梨県側も当初は３kmであった。その後の検討の中で山梨県内区間は１kmルート帯となった。その１kmという幅でＡ案、Ｂ案が示されて、とりまとめられたのが今のＢ案という形になっている。

ルートの決定とありますが、正式に言うとルートの決定ではなくルート帯の決定であり、１kmの幅の中で今後、30～50m幅の高速道路を検討する作業が国の方で行われていると聞いている。今、計画段階評価を担う小委員会で１kmのルート帯が同意された状況である。恐らく、今年度中に正式に国で決定されて、ルート帯の決定という形になるのではないかと思う。そのルート帯を決めたのは国である。

道路構造について

・概略で良いので、ルートに沿った道路構造は提示することが可能か？
・道路は盛土にするのか、切土にするのか。
・双葉～の中部横断道は片道１車線ですが、長坂～の道は２車線で計画しているか？
・切土、盛土、橋梁といった構造のメリット、デメリットを詳しく。現時点ではどの構造を主に採用することになっているのか？
・中央道付近（長坂、高根）では道路はどのような形（構造）になるのでしょうか？
・山沿いの所の道は橋かトンネルか？

▼

コンサルタント：車線数については国の公表資料に記述がないので、まだ決まっていない事項である。ただし、これはあくまで一般論だが、中部横断道の南側の区間や佐久側の区間では４車線を計画の完成形としているので、この区間も４車線で計画される可能性が高いのだろうとは思う。またルートや構造についても、まだ決定事項でないので、ここではあくまで一般論として地形等から見て、どういった道路構造が採用される可能性があるかというお話をさせていただきたい。皆さんのところにある立体地図を見ると南側の中央道から分岐してしばらくの区間は比較的平らで、ルート帯は平らな斜面を登っていく感じになっている。その後、国道141号よりも北側は、山や谷で起伏の大きい区間に突入していく。一般論として申し上げるならば、比較的平らな区間は、中央道と同じような道路構造が計画の選択肢になると思う。中央道の北杜市の区間は、７～８ｍくらいの盛土や切土と、短い橋梁が何カ所かある。この区間は中央道と同じように、小さめの盛土で道路が造られるというのが一般的ではないかと考えられる。それに対して、北側の山が高くて谷も深い地域は、谷が深いところでは橋梁、山が高いところではトンネルになる可能性があるので、橋梁やトンネル、部分的に高い盛土や切土区間も出るのではないかと考える。今日の午後からの説明でも、中央道を参考にして道路構造がどんな形が良いか、道路構造に配慮するとしたらどんなことが考えられるかを、皆さんと一緒に考えるテーマとして予定している。

凍結等、安全な道路構造について

・冬の道路、凍結時の問題
・場所的に冬は路面凍結する所が多いと思いますが、その際の道づくりは普通と同じ？
・高速自動車専用道路であるから、カーブ等が多いのはいかがか。

▼

コンサルタント：一般的に道路を造る時にはカーブや勾配について、安全に走れるように設計基準が決められており、これに則った道路構造とすることが定められている。凍結しやすいところでは特に急カーブ、急勾配は使わないように配慮する必要がある。また、ロードヒーティングという、路面を温かくするような施設も寒い地方では用いることがあるが、関東の高速道路で使った事例はない。
※　発言訂正　長野県の上信越自動車道で、ロードヒーティング設置事例がありました。

道路の利便性について

・大雪など、災害対応を重視したい。国道141号のバイパスとして活用できるためには無料化が必須と思う。それを北杜市として強く要望してほしい。
・有料道路ですか、無料ですか？それによって位置づけが大きく変わってきます。
・高速道路は出入口が限られた有料道路であり、その地域に住む人にとっては利用しにくい。利用料金を新潟県の北部（日本海東北自動車道の新発田～村上～朝日）のように一部、地方自治体が負担して、一般の利用者はタダで利用できるようにはできないか？
・中部横断自動車道ができることにより、どのくらいの人が利用するのか。おおまかな予測はしているのだろうか？
・後半部分が一般道（野辺山）とさほど時間が変わらないかと思いますが…。
・長野側、静岡への南側の沿線付近の住民の利便性も考えるべき。

▼

北杜市：有料か無料かは現在のところ計画は国がしているが、事業主体が国になるのか、中日本高速道路（ネクスコ）になるのか、そこまでの段階ではない状態である。南部区間についても有料区間があったり、新直轄の無料区間があるが、佐久JCTから佐久南までが無料区間で来ているので、絶対に無料だとは言えないが、無料になる可能性もある。
利用者の予測については、今、国の計画段階評価で検討しているので、俗に言うＢ／Ｃという経済効果は

今後、環境アセスメントを実施してその後出てくる。そしてそれが、国が事業者を決定する資料となるので、まだそこまでのデータは出ていないと思う。
　後半部分というのは恐らく清里から野辺山のことだと思う。野辺山の辺りは見通しも良く直線的であるため、制限速度以上を出してしまいがちだが、基本的にはあそこは50㎞制限道路で冬場は凍結もあるし、片側一車線の道路なので前にトラックがいれば遅くなる現実もある。高規格道路になれば当然、時間は短縮されると思う。野辺山の方からは、野辺山のてっぺんから下る市場坂は冬場はマイナス20何度という所で、凍結でかなり怖い思いをしているので、中部横断自動車道の整備を強く期待しているという声がある。

（付帯施設について）
・道の駅等を造り、一般道路と供用する事も考えてほしい。
・サービスエリアは造るのか。
・インターチェンジを清里近くにほしい。
・公共交通拠点（たぶん、駅だと思いますけど）と連携する必要があるのでしょうか？

▼

北杜市：道の駅やサービスエリアについては、関係者ワークショップや市民ワークショップの中で意見を出していただきたい。当然、インターチェンジもサービスエリアもお金がかかるので、欲しいからと言えば、「はい、どうぞ」と造ってくれるわけではないが、本当に市民の、利用者の皆さんがこう使いたいという理屈付けがあれば当然考えてくれると思う。その必要性をお聞きしたいということでこういう会を設けているので、是非そういった意見を出していただけたらなと思う。

3．周辺に対する影響や効果について

景観への影響
・八ヶ岳周辺の自然環境への影響は、今現在、どのような予想がされているのか。
・どんな風景、環境を守りたいのでしょうか？
・全国で山の中を走る高速道路がありますが、動物の影響をどうされたのか知りたい。調査されていると思います。
・山間を走りますが、動植物への影響は？（排ガス、音etc.）
・農地はどのような改善をなされているか？
・八ヶ岳地域の自然環境と集落、遺跡等を現存することができるのか疑問に思う。又、土砂災害の危険はないのか。
・道路照明を空に向けない工夫（八ヶ岳高原大橋のように）はなされるのか？それは北杜市は「星見里」とするくらい美しい星空がまだ残っている。貴重なところなのでぜひ、これは考慮していただきたい。
・獣道の別ルートは効果があるのか？獣の駆除はどうするか。

▼

北杜市：新しい道路が出来れば自然環境、人間も含めて動植物に影響がないことは絶対にない。それがどの程度かは今後、環境アセスメント等を行う中で事業主体で判断していくことになる。集落、動植物、星への影響について、何も知らなければ規格通りの通常の道路になるけれども、こういった会を通じて、「星空への影響を少なくして欲しい」「下向きの照明にして欲しい」という要望を皆さんからお聞きして、市の方から事業者へ言っていけば、当然設計に反映できる部分もあると思う。こういった自然環境、集落の懸念をどうすれば良いかを今日の場で出していただいて、それを市民の声として国に届けたいので、是非ご協力をお願いしたい。
コンサルタント：先ほどの凍結や安全性の話もそうで、道路を計画する時には地域の調査を行い、基準値を用いて、問題が生じないように計画をするが、市役所やここにお集まりの市民の皆さんから「この地域ではこういうことが特に問題だから、是非こうして欲しい」という意見をいただけると、地域の特徴や思いが今後、計画する時に伝わってきて、良い形で道路計画に反映されることに繋がる。皆さんに是非そういう意見を今回の話し合いの中で出していただければ良いと思う。

中部横断道路による活性化について

・長坂の接続道路について、気をつけることはどんなこと？
・ＩＣを設けることで観光業が活発になるのか、疑問に思う。
・観光、医療、農産業への効果は、高速道とは別途、市内道路の整備で考えるべき。
・利便性を追求することによって、通行するための手段になるのではないか。
・北杜市で、今後観光拠点として強くしていきたい場所は？
・観光の対象としているのは清里の他、どこですか？
・どのような企業を市内に誘致することが出来るのか？

▼

北杜市：総論でお答えする。基本的に道路が出来る、インターチェンジが出来ることで絶対に周辺が活性化するということはないと考えている。ただ道路ができることをチャンスとみて、それを活かして、例えば清里や大泉の観光であるとか、白州へ道路を整備してお客さんを引っ張るようなことが十分可能になってくる。今日検討する道路構造や道路プランにも関わってくるが、来年度以降に市民の取組プランもあるので、そういったところで皆さんにしっかり話し合いをいただき、意向をつかんで行きたい。今、地方創生で、市役所も他の市町村も、正直言って国に対して競争の時代になっている。当然、各観光地なり中部横断道を活用する地域なり、中部横断道を使って自分達の地域を活性化しようというところが同じような形で競争になっていくことをご理解いただきたい。

企業の誘致については、現在はどのような企業かなど、申し上げることがない。現在、北杜市は農業法人等、農業がある程度活性化されているが、逆に従来の工業系の企業の誘致が難しいのは、北杜に限らず県内の状況である。ただ一番怖いのは、北杜にある企業が逃げて行ってしまうことでその心配がある。一定のものを確保しながら、北杜の企業としての魅力ができるようなものを、道路を使って検討していきたいと考えている。

緊急時の利用について

・事故等で通行止め時の迂回道路の検討をしてほしい。
・緊急避難利用に使えるのか？
・高速道路を造っても使用していない地区の実例とか、失敗談も取り上げてほしい。

▼

北杜市：中部横断自動車道は高速道路なのでインターチェンジからの出入りが基本となり、数がある程度限定されてしまう。そうするとインターチェンジから離れたエリアの方々の利便性の問題が出てくる。それについては、例えば工事をする際に使った工事用道路を残していただいて、そこを緊急出入口として利用して、山間部の集落付近の急病人を高速道路を使って搬送するなどの緊急的な要素も検討していただきたいと考えている。

事故の迂回路については、ルートが決まらない段階なので言えないが、今までの既存の中央高速道路で、インター間で確保されたものを代替道路として幹線に回すというやり方になる。今回の場合は国道141号が代替道路になる可能性が高いと思う。そういう事故時の対応は、高速道路を造る時に国道141号の管理者である県に対しても、必要なものは市として要望を上げていかなければならないと考えている。

４．その他について（スケジュール、工事費等）

予算について

・道路を造るにあたって、金はどのくらいかかるか？
・道路建設において、おおむねの予算は決まっているのか。
・市が負担する　費用はどの位なのか？
・中部横断道路を造るにあたり、市の負担はないのか。あればどの位になるのか。
・ピックアップされた名所の整備は国で行ってくれるのか（費用等）。

▼

北杜市：現在、国で示されている長坂JCT～野辺山までの１km幅で、概ね1,600億～1,800億という想定がされている。国の計画している道路事業ですので市の負担はない。ただ市道に連結したインターチェンジへのアク

セス道路の整備は出てくるので、それについては市の負担になる。道の駅の整備は基本、事業主体ではないので地元自治体で整備していくことになる。そういった事業費については、今はまだ出ていない状況である。
　名所旧跡の整備は、国は自主的にはやってくれないと思う。いろんなアイデアの中で、中部横断道の整備として「ここを活かしたい」と言っていただければ、市として国や県に強力な支援はお願い出来るものだと思っているので、是非アイデアをいただければと思う。

市民への広報、意見の集め方

・141号線に住んでいる住民の（商業をしている人達）の意見も聴きたい。
・Bルート案に直接影響を受ける地元の市民から意見を聞くことが大事と思いますが、どのようなことを期待したり心配しているのか、わかったら教えてください。
・１番この道を使うのはトラック等の運送業の方ですが、こちらの方から意見は聞いているのか？
・話し合ったことを広めるために、広報だけでなく新聞に載せたりしないのか。広報だけでは住民に広がらないのではないか。
・ここで話し合い、意見が出たことは、これから先、どんな風に市民に伝わるのでしょうか。
・今後、いろいろな検討が行われ結果が出てくる中で、ＣＧなんかを使って一般市民に周知する計画があるか？
・ワークショップの提案等が取り入れられた例は。

▼

北杜市：本日はマスコミにお知らせしているので、取材にも来てくれれば、紙面にも載ると思う。話し合った内容については、４回の関係者ワークショップのうち２回までの記録を暮れに区内回覧で回している。内容が濃すぎるために字が小さいが、そこら辺はまた工夫したい。市のホームページや広報ほくとにも話し合いの内容を載せている。
　様々な皆さんの意見については、今日、市民ワークショップや関係者ワークショップの参加者や、道路河川課に直接来られる方からもお聞きしている状況である。トラックの方のご意見についても、一番最初の、総論の道路整備の時にも協会から国に対して出ているので承知している。

公共交通の充実

・高速道路によって静岡、日本海には近くなるが、現在の北杜市内の交通の便は車社会であって、非常に不便。高齢化を考えると、一般道のバスの便を優先してほしい。

▼

北杜市：今回の討議では難しいと思うが、こういったご意見はしっかりと、私たちから市政運営に反映出来るように伝えていきたいと思う。

スケジュールについて

・完成、運行開始時期は？（目標でも）
・いつまでに整備する予定ですか？

▼

北杜市：事業そのものがまだ事業決定されていないので、いつまでというのは今の段階では決まっていない。恐らく環境アセスの作業があって、事業に入ってもある程度の年数がかかるので、10数年という年数がかかるのではないかと思う。

会場からご意見がありました

参加者：たくさんの質問に回答していただき、ありがとうございました。回答を聞いている中で個人的に疑問に思ったことを聞かせていただきたい。

今、たくさんの意見や質問があったが、市民の皆さんが不安を抱えていること、例えば市内のバスを優先すべきだとか、利用者の人数はどうなのかとか、環境への影響はどうなのかとか、そういったことがまだ事業決定をしていないのであまり説明ができないんだと思う。その中で今日の午後の内容は、道路の形や照明、全国で造られている道路はどういうものかとなっているが、今、市民が出した不安材料を踏まえては午後の内容には進めないと思う。そこに開きがある。実際に道路を新設するにあたって、もっと根本的な問題をみんな不安に感じているのではないかと思った。その回答があまりにも抽象的というか、聞いていて分からない。その中で、午後のワークショップの位置づけをお聞きしたい。そこの段階に至っているのかなということ。

ファシリテーター：今の段階では、質問に対する答えは、これ以上言っても出てこないと思う。午後もより具体的な問題に即して、繰り返しそういう疑問や不安を出していただければ良いと思う。そもそもということで先に進めないと言われると、今日用意したことが出来なくなるので、道路を造ることありきの議論だと言えばそうかもしれないが、その中でもやはり不安は不安として、こういうものは困るということを出していただければと思う。

参加者：もちろんそういう場は与えられて当然だと思うが、午後の議題を見ると具体的な事業に着手した後の道路の形だとかになっている。

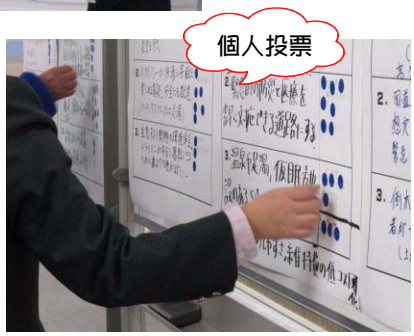
ファシリテーター：第２ラウンドは「守らなければいけないものは何か」ということで、道路そのものではなく、道路が出来ることで壊されては困るものを話してもらいたい。最後は「どういう道路だったらそれが守られるか」ということで、そもそも道路があっては出来ないと答えてもらって構わない。

参加者：先ほどの市の説明では、道路新設が前提ということだったので。

ファシリテーター：整備が前提だが、グループの中でそういう議論をしていただいて構わない。

北杜市：道路整備が前提である。今、市民の皆さんが不安として感じているもの、それは様々だと思うし、おっしゃっている意味も分かる。具体的に１つのものもあるし、相対的なものもある。今言われたように、心配なものが景観だった場合に、道路が出来ることによって景観がどうなることが不安なのか、その不安に対してどういう道路を造ったらそれに対処が出来るのか。例えば星が見えなくなる不安に対して、照明を工夫するというのがあるが、構造的にこうすれば解消する手段があるなど、そういう知識を得る場としても考えている。様々な不安を出していただく、私どもは対処できる方法を情報として提供する、そういう議論を重ねた中で、どういう中部横断道路を造るかを考えて行きたい。

ファシリテーター：今日、出た意見を伝えることはするが、ここで何かを決めるということではない。そういうことで言うと、「そもそも道路はいらない」という話も含めて議論していただいて結構だし、その意見を伝えないということではないということでご了解いただきたい。



活かしたい地域資源（北杜市の宝物）について提案してください

北杜市のまちづくりに活かしていきたい地域資源についてグループで話し合い、全体の場で発表していただきました。

Aグループ

1．里山風景を中心とした自然景観（八ヶ岳、富士山）
2．湧水や動植物などの自然環境（ほたる）
3．神社、お寺をはじめとした、地域の文化、史跡、建築物など。
※一流の田舎町！（都会に無いもの）

- 生活していて当たり前に八ヶ岳や富士山が見える贅沢さがある。
- 甲府ではわざわざほたるを他から持ってきて祭りをしている。そのほたるが生息しているというのはすごいことだと思う。
- 里山風景は都会にはない、残したい景観。
- 都会にないものが北杜市の宝ではないか。これを道路にも反映してもらいたい。

Bグループ

1．自然景観（夜空を確保）
2．自然環境
3．文化、史跡

- 参加メンバーはルートから離れていて実感がわかなかったが、きれいな景色というイメージが強く、そのような意見が多く出た。
- 高速道路を走った時に眺めが良い、鹿が出てこないような道路だったら良い。
- 若い方達が山梨に来て、農業中心の地産地消を中心とした県になると良い。
- 地域の文化、歴史を無視しては次の時代は過ごせないので、それは残す。何が大事かという選択は出来ないので最小限の犠牲とし、産業、経済が発展できるような高速道路であれば有り難い。

Cグループ

1．自然環境（生物を含む）、風景・景観
2．農業を守る環境
3．伝統文化

- 北杜市は農業が盛んなので、農業を守る環境を大切にしたい。例えば高原野菜を作っている方は、基本的に電線を畑に通さないように電力会社に言う。それは電線に溜まる水滴が原因で、その下の農作物がダメになるからという理由からである。高速道路を造ることによる日なた、日陰や電線をどうするかが一番問題だと思う。
- 何も建造物や余分なものをつくらない、自然をそのまま見ていただくことが一番、観光客誘致には良いのではないか。市民にとっても住みよい環境になるのではないか。

Dグループ

1．自然と共存して豊かにくらせる
2．自然と調和した産業基盤
3．遺跡、神仏の保存

- 全員で一致したのは、自然と共存し豊かに暮らせる環境を大切にしたいということ。
- 「人と自然と文化が躍動する環境創造都市」というスローガンから、文化の面も観光の強みとしてほしい。
- 人が暮らしているからこその里山である。
- 自然と調和した産業がないと地域活性化はしない。農業を中心とした地域がこの景観を守っていると思う。若い人が夢を持って暮らせる産業をどうしたら興せるのか。その産業基盤は農業で、景観と一緒に調和したようなものなのではないか。

Eグループ

1．景観・史跡保護
2．田畑、ブランド米
3．星空

- 都会から来て初めて気がつくようなものがいっぱいある。
- ここは武川米というブランド米もあるし、他に高根町の米も全国有数のうまい米と認められている。なので田んぼを道路で分断するようなことはなるべく避けてほしい。果樹園などにも配慮してもらいたい。
- ここは日本でも有数な星が見える里で、「星見里」と書いて「ほくとし」とフリガナを付けている。暗い夜空を守るために高速道路の照明に配慮して、美しい星空を売りにするべき。もっと宣伝して、北杜市に都会から星を見に来たい人に、泊まり込みで来ていただきたい。素通りではなく一泊なり二泊なりしていただいて、活性化につなげていきたい。

各グループで出されたポストイットの記録

（　　）はグループ番号

＜自然、景観＞
・どこをとっても「絵」になる風景（D）
・景観（A）
・自然、景観（人工物との共存）（A）
・風景、景観。自然なままの景観が住民、市民にも、観光客を呼び込む事にも良いことだと思う。（C）
・自然資源（景観、動植物全てを含む）（A）
・豊かな自然（A）
・里山。高根町北割につくし取りに行ったり、七夕の竹取りに行きました！（A）
・自然、景観、里山（C）
・自然。多少の自然が破壊されるのは仕方がないが、自然を求めている別荘客もいるから。（C）
・自然環境。今どんどん林の木が切られていて、自然破壊が進んでいる現状がある。（C）
・森や林（B）
・森の保護、保全（C）
・北杜市を囲む山々の景色（D）
・山。自然に魅せられて北杜市に移住してくる人もいるので、自然の景観を破壊するようなことはあってほしくない。（D）
・景観（八ヶ岳、富士山、南アルプス、金峰山）を大切にすべき（高架橋は不要）。（E）
・武川の広域農道からの八ヶ岳（B）
・景観。山々、空、雲、夜空（B）
・暗い夜空（E）
・恵まれた自然環境を活かしたまちづくり、道づくりをしてほしい。（C）
・八ヶ岳が美しく見える部分を作ってほしい。（B）
・八ヶ岳、南アルプス、北アルプス、富士山が一度に眺めることのできる場所、展望スペース。その景観を邪魔しない道路、建造物。（D）
・展望の良いＳＡをつくり、八ヶ岳、富士山、その他を眺める。（E）
・各山々の眺望はルートの中で必要。（D）
・景色が見える道路（B）
・自然、景観の保持ではなく、より美しい自然、景観を想像し、観光業を活性化できる市づくりを大切にしてほしい。（E）
・自然豊かな中で子育てできる環境（D）

＜動植物＞
・まきば公園周辺で大量のとんぼに遭遇！虫取りがとても楽しかったです!!車にオニヤンマが飛び込んで来た時もすごかった!!（A）
・清里で角の立派な牡鹿に会った時、びっくりしたし感動しました。動物を大切にしたいですね。（A）
・ほたる。理由は地域住民のつながりが生まれるから。観光資源になる。ほたるの住める水場も必要。（A）
・生息する動物たち（(A）
・鳥、蝶（オオムラサキ）（C）
・昆虫、小動物(C)
・ヤマネなどの動物。貴重な動物だから。（C）
・国道141号沿いには鹿、猿、きつね、たぬきなどが普通に見ることができるところ。（C）

＜豊かな水＞
・湧水、水のきれいさはアピールポイント大。「南アルプスの天然水」とか有名ですし。（A）
・豊かな湧水（C）
・八ヶ岳の豊かな湧水群（D）
・観音第一溜め池（B）
・吐竜の滝。小～中学生の授業のハイキングコースとして取り入れられている。（C）

＜歴史・文化＞
・地域の風土、習慣（A）
・道の駅きよさとの鯉のぼりとお祭り。子どもの時、すごい楽しかった!!（E）
・小さな集落に古来より伝わって来た伝統文化が必ずあります。余り知られていない行事や、建造物等を掘り起こす事業も必要かと思います。（C）
・地域で守り続けてきた伝統文化の発掘（C）
・地域の文化の継承、発展（D）

＜史跡・建造物＞
・歴史的建物遺跡（C）
・おいしい学校など古い建築物。観光資源、里山の景観保全に役立つ。（E）
・三代校舎（B）
・神社、寺院、道祖神等。（E）
・神社仏閣などの史跡等（D）
・史跡（E）
・源太ヶ城跡（B）
・歴史。今、高原野菜として使われている畑は、実はたばこ畑だったことなどの、地元の方しか知らない話をまとめた場？（C）
・遺跡や神仏の神はできうる限り地域の方と検討していただきたい。（D）
・遺跡、浅川兄弟の墓など。北杜市の歴史、文化を県外から来る人（観光客）にアピールする強み。（D）
・ルート以外のピックアップされた遺跡や神仏は、整備して保存できるとうれしいが。（D）

＜農業などの産業＞
・農地(A)
・高速道路をつくる事によって、高原野菜など作物への影響があってはならない。（C）
・農作物の地産地消。観光と農業を結びつけた産業、地域おこし。（D）
・農業を基本にした経済発展、地域活性化。そのためには若者の雇用創出、農業や六次産業化、農商工連携に役立つもの、ことを大切に。（D）
・北杜市は全国一、おいしい米がとれる（武川米はブランド化している）。ほかにもこのうまい米を大切にし、これを活かしていくべきである（不要なライトによる植物絵の影響etc.）。（E）
・自然。米、農業、農地を大切にする。（E）
・米作地。高架で通過する。（E）
・煙突から煙が出るような、空気や水を汚染するような工場は誘致しない。（D）

＜その他＞・照明のない、安全なバイパスのような生活道路をもう一本通した方がよいと思う。（E）
・今の141号線の上に２段にして、上を高速道路にする。雪が降っても除雪は上の道だけで良いので、経費が削減される。（E）

地域資源を生かし、新しい北杜市の魅力を生み出す道路構造を考えます

地域資源を活かし、新しい北杜市の魅力を生み出す道路構造の工夫や道路づくりのアイデアを出し合い、提案をまとめていただきました。発表を聞いて、良いと思った提案５つにシール投票をしました。

（　）はグループ番号

道路構造の工夫や道路づくりのアイデア	票数
◎公共交通機関との連携（一般道など）（A）	13
◎独自なテーマ作成。橋や柱の色、季節毎の花の設置。（D）	13
◎地域の情報発信（A）	10
◎緊急時の防災と医療に素早く対応できる道路にする。（B）	10
◎大泉、高根の比較的平坦地は景観に配慮した自然に優しい工法（植栽工、道路構造物の色、型式等）。高架工法はＮＧ（E）	10
◎自然に調和した道路。コンクリートの色を茶や緑。星空を守る。（C）	9
◎ドライバーが快適に景観を楽しめる道路。安全にも配慮（パーキングスペースには足湯）（C）	8
◎景観を楽しめて景観を破壊しない（駐車場、展望台など）。星空を守るため、低い照明。（A）	7
◎景観重視の設計。住民にも利用者にも美しい道路。目立たない高速道路の設置。（D）	7
◎倒木が想定される範囲を、道路管理者が責任を持って管理する方式の樹立（土地利用者の責任回避）。（E）	7
◎温泉や足湯、仮眠施設のあるＳＡの充実（B）	4
◎メンテナンスのしやすさ、維持費の低コスト化（B）	4
◎充電スポットの設置。利用時の景観の利用。（D）	4
◎生息する小動物の環境保全。ドライバーが安全に運転できるために、鹿よけの柵が欲しい。（C）	3
◎アニマルパスウェイや騒音対策の工夫など、他の高速道路と差別化を図る。（B）	2
◎国道141号線東側はトンネル工法が想定されるが、工事用作業路を利用した緊急出入口の設置。（E）	2

Ａグループの発表から

・道からも楽しめ、住んでいる人にとっても景観を破壊しない、両方が満足する道が欲しい。
・高速バスの乗り場や駅の近くに駐車スペースがあって、うまく公共交通と連携できるような道が必要。また北杜市内、県全体の一般道の整備と中部横断道路の関係という大きなイメージを持ってやる必要がある。
・地域にあるいろんな資源をつなげられるような、情報発信出来るような場所があると良いのではないか。そこに農産物や工芸品もある道なら、北杜市の発展にもつながる。

Ｂグループの発表から

・騒音が全く聞こえない工事現場の事例があるそうなので、工夫をして他の道路と差別化を図りたい。
・車の故障や事故を起こした時の安全避難所を設ける。
・北杜という地名のブランドがあまり人々に浸透していない。この中部横断道路が出来ると、大都市からも多く人がやって来ることが予想され、そういう人たちにも北杜の名前を知ってもらえる機会が増えるのではないかということも期待している。

Cグループの発表から

・コンクリートの色が自然に溶け込んだ緑や茶色であれば、目に優しいのではないか。
・パーキングスペースには足湯などを設けて、ドライバーが休める場所も設置して欲しい・八ヶ岳はリトリート北杜と言って、長く滞在してお休みに来て下さいというのが売りだと思う。スピードを出して走るのではなく、思わずゆっくり走ってしまう道路にしたい。
・生息する小動物の環境保全と共に、運転するドライバー側も安全に運転できるために、鹿よけの柵などを設けて欲しい。

Dグループの発表から

・外から高速を見た時にも目立たず、中を走る方にも美しいと思えるようなデザインや色の工夫があるのではないか。
・北杜市の独自なテーマを決めて、その区間はテーマに沿った花や木を植えれば、運転する人も飽きないで通れるし、花のイベントは長期的なので、利用者も増えるのでは。
・整備は十数年後で電気自動車が増えてくる。、休憩所やサービスエリアには充電スポットを設置したり、休憩所の景観を良くするなどの工夫があると良い。

Eグループの発表から

・大泉、高根の比較的平坦地は、景観に配慮した自然に優しい工法にしていただきたい。南アルプスを走っているような高架工法だけは絶対にＮＧという話だった。
・津金はトンネル工法が想定される。ここはインターまで距離があるので、工事作業路を利用した緊急出入口を設置してもらいたい。
・高速道路の管理責任について、今後は高齢化により、土地所有者が責任を持つのが難しくなることが考えられる。今後は道路管理者が範囲を広げて責任を持ってもらいたい。
・次世代に残る借金を心配する意見もあった。

コンクリートの色を茶や緑にするという意見が出ているが、そういう道路工作物は可能なのか。

コンサルタント：金属製の橋の場合は、地域と調和させるために色を選ぶことがよくあるが、コンクリート製の場合は表面に模様を付けたりして、色はつけないで自然らしくすることが多い。デザインで自然に調和させるということもある。コンクリートに色を付けることは出来るが、あまり行っていない。

各グループで出されたポストイットの記録

（　　）はグループ番号

＜景色が楽しめる道路＞
・展望道路。景観を眺められる駐車スペースがいくつでもある道（A）
・素晴らしい景観を満喫出来る広場造り（A）
・景色がいい所に駐車場をつくってほしい。（A）
・下道でも景観の良い所に駐車場や展望台を設置
・特に紅葉がみたいです！（B）
・雄大な景観を楽しめる（ツーリング含む）→「聖地」化。地名をＰＲ出来る。（B）
・八ヶ岳の景観をこわさず、調和できる道路を造ってほしい。（C）
・運転手から八ヶ岳が見えるような道路（C）
・ゆっくり走りたくなるような、周囲の景色が見えるルートデザイン（C）
・高速道路は両側が壁なので眠くなるから、自然が見える様な道にしてほしい。走ってみたい高速道路と呼ばれるような。（D）
・道路を利用する側の人たちにも八ヶ岳や美しい景観が見えるように工夫してほしい。出来るだけ遮音壁をつけないようにしたい。（D）

＜北杜市の魅力の発信＞
・観光で来た人に対するインフォメーション、案内所をインターチェンジ近くや道の駅に整備する。（A）
・高速道のインターチェンジは北杜市の魅力を広く知らせる窓口となる様にしたい。（A）
・北杜市内の伝統文化、芸術文化の集約。市内全体を宣伝出来る体系づくり。（A）
・地元の農産物、伝統工芸品の直売所を道の駅につくる。（A）
・観光農園に都会から気軽にやってこれる道路（A）
・新鮮な朝採り野菜など、農産物を首都圏に運びやすくなる道路（A）

＜既存施設との関係＞
・まず北杜市内の国道、県道の整備（走り易く）。高速道より下道の方が大事です。（A）
・公共交通機関との連携ができる道。バスや電車に乗り換えるための駐車場の確保。（A）
・遺跡や保存に資する建築物のところは避けて欲しい。又トンネル等で工夫のある道にして欲しい。（C）
・住民の生活基盤を崩さないような道路造り（B）

＜道路構造の工夫＞
・音が流れる道路（A）
・富士のメロディラインみたいな工夫（B）
・騒音を出さない、最新技術を適用する。（B）
・運転者の負担にならない程度に上下左右の線形に変化があった方がライダーが楽しいかと。（B）
・星空を守るために、低い位置に照明を付けて欲しい。（A）
・空にライトが向かない様に対策する。（B）
・照明を取り付ける場合はＬＥＤのライトを使用してもらいたい（白色）。（B）
・星空を守りたいのなら、周りに光が漏れない照明に。（C）
・低い位置に設置して、横方向に照らすタイプの照明をぜひ採用して、美しい星空を守っていただきたい。（C）
・景観を大切にした建築。照明、防音。（D）
・橋や壁面、防音壁はGoodデザインにしてもらう。きれいなだけでなく自慢できるものにする。（B）
・トラス橋とか橋のバリエーションを。（B）
・造るなら美しい橋を山間部にかける。フランスのミョー橋とか超有名（B）
・自然な景色と橋のデザインがマッチする様に。デザインが世界一とか。（D）
・橋の場合、コンクリートの色を茶や緑にすると景観を損なわないと思う。（C）
・テーマ「自然」。デザイン、色合い→コンクリートの打ちっ放しじゃなければダメなのか？景観→○○ｍごとにポイント。季節にあった花や木を植える（ストーリー風）。（D）
・「一度は通行してみたい!!」の発想はいい!!（D）
・盛土と切土を組み合わせて、最小限の土の移動にしてほしい。→環境保全（B）
・可能であれば盛土よりも切土の方が自然保護、景観上も良いのではないか。（B）
・盛土にしても切土にしても、植栽にしてほしい。（C）
・平坦地は高架工事はＮＧ（E）
・長坂JCから大泉、高根の比較的平坦地は景観に配慮した自然に優しい工法（植栽や花、構造物の色）。（E）
・ＵＰ，ＤＯＷＮを極力減らす。（B）

＜サービスエリア、インターチェンジ、道の駅＞
・ＳＡに温泉があり、泊まることが出来る。星空が見られる。（B）
・八ヶ岳ＳＡのように外部の人も利用できる場所だといい!!（B）
・ＳＡから名所などへ降りられる。（B）
・サービスエリアや休憩所は一流の田舎っぽく、あえて古風に。（D）
・パーキングスペースにはリトリート北杜といわれるよう、keep協会内のような足湯があってもよいかも。（C）
・眺めの良い場所に充電スポットをつけたい。充電している間は眺めて休む。（D）
・インターチェンジは清里付近だけで良いと思う。（B）
・インターチェンジ付近にはアクセスの施設はなく、案内だけで良いと思う（地域へ行かなくなる）。（D）

＜動植物への配慮＞
・生息する小動物の生存をおびやかさない、保護できるアニマルパスウェイを多く設置して欲しい。フクロウを守るのには金網では引っかかって死に至っている。（C）
・周囲に咲く草花、植物を保護して欲しい。又森や林もできるだけ残すようにして欲しい。（C）
・可能ならば目立たない高速道路。道路の周囲に豊かな植生が育つような環境。（D）
・動物保護はやはり必要か？「ヤマネ」はいいけど「鹿」はね？（D）

＜安全、安心な道＞
・災害時に生活道路のバイパスに使える道（A）
・緊急時の防災と医療にすばやく対応できる道路（B）
・車が故障や事故を起こした時の安全避難所を設ける。（B）
・笹子トンネルの事故のようなものが発生しない。（B）
・高速道路に動物などが侵入しないようにする。（B）
・山間部の道路内へ鹿が入ってこないような対策はできるか。（C）
・一般道と交差する所は見通しを良くする。（C）
・国道141号線側はトンネルが想定されるが、作業路を活かした緊急出入口の設置（E）
・道路建設後の安全管理。倒木が想定される範囲を道路管理者が管理する。（E）
・２車線だと走行する際、恐怖を感じるので是非４車線で!!（D）

＜差別化＞
・他の高速道路と差別化（B）
・アニマルパスウェイ、照明の工夫などの環境配慮を宣伝。特殊、独自性。「北杜」のブランドを高めることが可能では。（B）
・せっかくつくる道路なのだから、これ以上の道はないと云われる環境、景観に配慮した道路をつくって欲しい。（C）
・通行料は有料が良い。（B）

＜低コスト化の工夫＞
・橋、トンネルは恒久的なメンテナンス費用が大きいので、なるべく避ける。（B）
・管理しやすい（B）
・経費をかけないでリーズナブルな道路。維持費を安くする。（B）
・道路を造る費用の心配が大きい。次世代に残る借金が心配。一主婦。（E）
・急いで長距離を移動するときは高速道路は便利。かといって生活の邪魔にしたくない。その両方を兼ね備えるのが上下２段式道路である。上段を高速、下段を一般道とし、既存の国道141号線を改造する。土地の買収などの費用、冬の除雪の費用が削減され、一挙両得である。景観が保たれる。（C）

（参加者から）
双葉JCTから南アルプスに降りる高架橋のところが２車線で怖い。
４車線で作ってほしい。

コンサルタント：一般的に、完成形として将来は４車線にするが、まず道路を早くに通そうということで暫定的に２車線で造ることがよく行われる。そうすると確かに上り下りでガードレールがなかったりして危険だと感じられるのだと思う。これは高速道路の暫定形の問題だと思うので、問題点として事業者に伝えるべき事項だと思う。

まとめ

最後に、これまでの話し合いの結果を踏まえて、道路プランに対する思いをご意見カードに書いていただきました。また道路プランのキャッチフレーズも考えていただきました。

道路プランに対するご意見

有意義だった

○「ワークショップ！！」聞き慣れた言葉であったが内容は来てみてびっくりの道路プラン！！興味はあっても積極性に欠けていた道路計画に参加出来た事はとてもラッキーだった。様々な年代の方と交流でき、将来の展望にも明るさが見えるように感じた。10代の人が頑張っている北杜市でうれしかったです。

○住んでいる人々の気持ちにそった行政のういた案にならないことをいのります。ふつうの人とご一緒でき、とても良い体験をしました。

○本日出席して色々な考え方や意見があるのだと感心しました。特に高校生、大学生と共に考え、私自身の勉強にもなりました。早く完成して私達にも利用出来ればうれしいと思いますが無理だと思います（忘れていましたがこの道路は貨物車（トラック）が多く利用すると思いますので、片側二車線が良いと思います）。

○市民の幸と心が豊かに成れる道路になってほしい。高根、大泉、須玉等土地に関係する方々及び周辺の方々の感じ方、考え方、昔から生まれ育った方々と新住民の方々の考え方、北杜市の西方北方の人々の考え方、感じ方の相当の巾がある。我が故郷、北杜市が道路の為に話し合えた事は実に良かったと思います。市民の誇れる道路に成ってほしいと思います。「高速道　未来の孫、子へ　夢運ぶ」

○まだたくさんの道路反対意見などあり意外でした。でも話し合いの中でいろんな考えを聞く事ができとても参考になりました。観光として地域の農産物、手仕事（北杜市には作家の方の移住が多数）など参加できる場を提供し広めていけると願っています。

景観に配慮し、地域を大切にした道路に

○八ヶ岳にコンクリート色が横に走らない、新緑、紅葉に映えるような橋梁、斜面色彩に。高齢者に少しでも役立つような道路に。

○八ヶ岳の景観及び環境（動植物、森、林、湧水など）を損ねない道路づくり、地域住民からの景観、又ドライバーから見ても違和感のない道づくりを望む。多額の税金を使っての高速道路建設になるのでできる限り環境、景観にリスクのないこれまで以上の素晴らしい最高の道路建設を望みます。「人と自然の共存、共生の道路プラン」を進めて欲しいです。東京、静岡方面から通過の道ではなく滞在したくなる道によって北杜市の活性化につなげたらいいなと思います。

○北杜市の雄大で豊かな自然を楽しんでもらうために、景色の良い所では車を止める場所を設けたり、道の駅には星空を眺めることができる展望台などを設けられたらどうでしょうか。公共交通機関との連携という意見もありました。私も全くその通りだと思います。「東京などへ出かける時に電車を利用したいから駅の近くまで横断道を通り、途中の駐車スペースで車を停める」、そんな場所も欲しいと思います。

○どのグループも自然環境を守り、風景、景観を大切にするという意見が多かったのですが、自然破壊しない道路建設は無理な事。最小限になることを願っています。道路建設によって、失望する人、辛い思いをする人がいない事を祈るばかりです。

○今回のワークショップにてさまざまな意見が出ましたが、全体的に地域の大切さを重視した整備が一番ではないかと思いました。個人的には利用のしやすさを重視してそのサブとして地域的なものができれば思います。まだまだ先の話でいろいろな意見が出るかと思いますが、利用車（者）がまず満足できたうえで地域の方々が納得できるものをつくってほしいと願います。

北杜市ならではの道づくりを

○一日じっくり道路プランに関して考えることが出来た。普段は全く別の分野の勉強をしているのでとても刺激的だった。今日の意見がどのくらい、どのように上に届いていくのかわからないが、やらなきゃ何も始まらないと思う。日本一を目指すなら北杜市の差別化をしていかなきゃいけないし、今までにないような道をつくってほしい。10年先のことなので、おそらく働き方や人の動き方が変わってくると思う。その辺りの考え方ももっと取り入れていくべきだと感じた。

○本日のワークショップはとても勉強になりました。有難うございました。私は高速道路を作るなら、地域にプラスに働く道路を作って頂きたいです。例えば景観の美しい橋を作って観光資源の一つにしたり、地域住民と高速道路を密接なものにしたり（ICの管理を住民に行ってもらう、SAの運営や周辺の維持管理の協力など）北杜になじむものを作って頂きたいです。地元に住むおじちゃんおばちゃんが、「しょうがねえなあ、俺が面倒みてやるよ」的な位置付けになれば最高ですね！！

○まだ何も決定していない中での住民ワークショップは限界があり、私たちが出した意見を市や県や国などどこまで通すことが出来るのかによって住民の建設に対する関心も変わってくるのではないか。すばらしい景観を持つ北杜市ならではの道路にしてほしい。利用者が「またここから八ヶ岳や富士山を観たい」と思ってくれるような道路作りをしてほしい。北杜市の自然を犠牲にして道路を建設するので、北杜市にとって有益な道路になってほしいというのが北杜市に住む私の意見です。

○中央道の韮崎、小淵沢間は日本一美しい高速道路と呼ばれていますが、その続きで八ヶ岳が美しく観える道路であってほしいし、住民にも運転者にも自然の景観に調和した「美しさ」を追求したデザインにする事が一番の条件です。また、案内掲示板等は北杜市独自性のあるデザイン（写真に思わずとりたくなる様なデザイン）で、高速道路を走っているとどこにいるのかわらなくなる人も多いので印象に残る様な観光スポットの導きになると嬉しい。（インターチェンジの出入口の環境までは話し合えませんでしたが長坂IC近くは道路が狭くてどうなるのでしょうか？）

○やはりライフラインとしての道路が増えるということは喜ばしいし安心出来ます（それに北杜市だけの話だけじゃないですからね…）。もちろん環境への配慮を重視しなければならないのですが、それが逆に他の高速道路にはない独自性を持つことにつながるのではないかと思っています。稀有な眺望に加え、アニマルパスウェイや星空への配慮など、それ自体が北杜市の特殊性を物語っているのだと。個人的にはサイクリングロードを併設するのには大賛成です。この地域の道路を「聖地化」するところまでいけるのでは（例えば国道最高地点の渋峠のように）。北杜市のブランドを高めていけるような道路プランを期待しています。

道路計画について

○中部横断自動車道は太平洋と日本海を結ぶ非常に大事な自動車高速道路である。この大きな目的に添って考えても、現在の長坂へJCTを設けるのは理にかなっていないと考えざるを得ない。何故、長坂JCTが共にありきなのかを今日誰も納得できる説明をしてくれなかった。基本的になるべくUP,DOWN、カーブ、トンネル、橋の少ないルートでしかも民家への影響が最小限で再度考え直して欲しい。後世に負の遺産ではなく、良い遺産としての高速道路として建設して欲しい。須玉から明野、又は双葉への直接JCTを望む。費用が掛かる場合は道路時期を延長してもそうするべきである。リニア新幹線へのアクセスを考えた上でも現在のプランは住民、国民の為になったものでない。

○上が高速道路で下が一般道路の二層構造（方法は複数あると思います）にすることをぜひお願いしたいことです。既存の国道141号線の改修だけでなく、新しくつくる場合もぜひ考慮していただきたいと思います。

○北杜市内を走る141号線や各県道の充実した整備を優先して下さい。センターラインやゼブラゾーンが消えている。人口5万人も居ない町には高速道路はいらないと思います。日本国には1000兆円の借金があります。山梨県にも約1億の借金が有ります。

今後の進め方について

○道路造りにあたって、住民と話し合いをしながらよく吟味をし、国、市役所、関係する事業所は事業の重さ（責任）を感じまっとうしてもらいたい。

○私は道路を作ることに賛成です。ですが、今ある自然を破壊されるのは嫌です。市民の声をしっかり聞いて決めて欲しいです。

○道路プラン作成にあたっては、まず現状分析が基本。現在の北杜市の道路状況、交通網の問題はどこにあるかを市民の共通認識にしない限り、思いつきの提案に終わってしまうのではないか。また、その問題をどんな課題にして認識するのか、北杜市の将来像との関係で具体化していくこと。北杜市の行政側から問題点、課題をどう抱えているのか提起してほしい。将来像では観光だけでなく、高齢化で担い手がどんどん減って耕作放棄地が増えている農業を新たに移住に農業をしたいと思っている若者の雇用や生活の場となりうるよう、どう発展させていくのか。大市場がある首都圏と近いという地の利を活かせる道路プランを考えるべきでないかと。言葉遊びにならないように。具体的な将来像を描いていくこと。

○市民ワーキングショップの意見を検討委員会に理解してもらいたい。早期実現できることをお願いする。

○これまで何回となく中部横断自動車道について説明会や活用検討会、関係者ワークショップ等を実施されてきたと思いますが、そろそろ検討から国への要望の時期が到来していると思います。国の要望に続き、ルート帯の範囲に係る地域への説明会の早期開催を望みます。

○住民によるもっと根本的な議論を成熟させるのが優先されるべき。今回のワークショップは市民の一番の関心事と離れた内容を考えることを強いられたものになっていたと思う。それは最初の第1ラウンドで挙げられた意見、質問内容から明らかであった。民主的なプロセスをしっかり踏んでいるならば良いが、市民の賛否を問う機会があまりにも少ないし、それを活かす雰囲気もないのが問題である。また、これは借金によって遂行される国の事業で、返済に当たるのは若い人たち。彼らの意見こそ最も反映されるべきであるのに聞き取りが甘い。必要ならば若者を中心に集める機会を創ってでも意見の吸収を図るべき（現時点で表明された意見は反対多数であるはずだ）。今日、建設に対して異議を唱える者がいたこともしっかり公表する際に盛り込んで頂きたい。

道路プランのキャッチフレーズ

「環境・景観」のキャッチフレーズ

◆圧倒的に自然を感じる道路プラン
◆自然のパノラマを存分に楽しむ道路プラン
◆自然になじむ道路プラン
◆八ヶ岳、富士山ネーチャーベストビュー道路
◆「里山の自然景観」も加えた方が良い
◆白樺の並木道を希望します
◆未来の子供が自然環境に驚き、発見、楽しさを見出だせる道路プラン
◆星の名産地「星見里（ホクト）」市に恥じない道路に（星空を守っていただきたい）
◆星のキレイな道路
◆動植物、人間の共存できるプラン
◆動物がふとたちよる自然の道路
◆動植物を大切にして、なおかつ北杜市の美しさを大切にするプラン
◆利用車にも住民にも有意義な道路設置
◆住民を大切に考えてくださる道路プラン

「観光」のキャッチフレーズ

◆自然都市アピールへの道路プラン
◆自然を生かした産業の発展
◆北杜の絶景を外部へ発信！！
◆観光拠点へのアクセス向上プラン
◆インターチェンジで不足分はSAでカバーする道の駅等
◆北杜市に遊びに来るのに便利になったネと云われるプラン
◆星を観に都会から宿泊客がやってきたくなる地域をまずつくることの方が先だと思います。
◆昔と今をつなげる星々の道路
◆又、来たくなるような道路に
◆周回性を考慮した道であることと高速道路そのものを楽しめる道路プラン
◆観光は北杜市にとって最も大事な柱であると考える。現在の道路の整備やプランについては具体的なものが見えてこない。また高速道路とは直接結びつけるのではなく、間接的にそれを活かしてゆく具体的プランを立案してゆくべきである。

「くらし」のキャッチフレーズ

◆多くの笑顔を生む道路プラン
◆北杜市に暮らしていて幸せだと感じられるプラン
◆老若男女が北杜を好きになる道路にしてほしい
◆高齢社会に適応した道路を！
◆安全、安心を大切にする道路プラン
◆防災、医療を素早く対応できる道路プラン
◆医療機関の利用範囲の拡張と機敏性の確保
◆命（人、動物、植物）をつなぐ道路プラン
◆命を導くライフライン
◆農業発展
◆公共交通機関と連携した道路プラン

「地域活性化」のキャッチフレーズ

◆地域の未来を考える道路プラン
◆高速道路の建設によって、地域が活気を取り戻してほしい
◆「皆の笑顔が地域を潤す」道路プラン
◆六次産業、農業の活性化プラン
◆物流面にも資する道路設計を望みます
◆早く長距離を移動することだけでなく、ゆっくり生活に根ざした道路も必要。緩急両方に即応した道路を！
◆スローライフを楽しめるハイウェイ
◆文化史跡を守る

「全体」のキャッチフレーズ

◆人と自然の共存を目指す道路プラン
◆八ヶ岳、富士山ベストビュー道路
◆自然を大切にした道路プラン
◆「都会にはない星が輝く高速道路」
◆都会に無い様々な資源を生かした「一流の田舎町」を目指すプラン
◆日本海と太平洋の経済道路
◆市民参加による未来の道路づくり
◆国民の税金を無駄遣いしてもらいたくない

ワークショップのまとめ

○第１回市民ワークショップを終えて　　［愛知学泉大学　伊藤雅春］

今回実施した市民ワークショップについて、ファシリテーターとしての簡単なまとめをさせて頂きます。今回の参加者構成の男女比を見ると５８％とやや男性が多いものの関係者ワークショップの構成比と比較しても女性が多く、無作為抽出による効果だと判断しています。やや男性が多いのはテーマの性格によるものかもしれません。２０代以上の参加者構成は、７０代がやや少ないこと以外ほぼ他事例と同様の傾向でした。４０代は、こうした参加の場に最も出席しにくい状況にある年代層であることは現代社会の構造的課題であるといえます。参加率は少なかったとはいえ、２割を占める１０代の方（５名）に参加頂けたことは、北杜市の英断によるものと評価したいと思います。全体としてみると２４名という参加者数は、決して多いとは言えませんが、プラーヌンクスツェレ方式の討議会として考えると、５グループ構成で席替えを行いながらできるだけ多くの参加者と熟議する環境としては適切な規模であったと評価しています。今回の参加者の意見の多様性を考えると、討議結果はミニ・パブリクスとしての正当性があったと思います。また、こうした市民ワークショップをもう少し多人数（１００名程度）で積み重ねていくことにより、北杜市民全体の意見構成をより正確に反映していくことが期待されます。参加者のご意見カードには、こうした話し合いの場について、「様々な年代の方と交流でき、将来の展望にも明るさが見えるように感じた。10代の人が頑張っている北杜市でうれしかったです」、「我が故郷、北杜市が道路の為に話し合えた事は実に良かったと思います」という肯定的な意見が多くありましたが、「住民によるもっと根本的な議論を成熟させるのが優先されるべき」というご意見も頂きました。道路に対するご意見としては、様々な質問や疑問に対する説明を理解して頂いた上で、「日本一を目指すなら北杜市の差別化をしていかなきゃいけないし、今までにないような道をつくってほしい」、「利用者が『またここから八ヶ岳や富士山を観たい』と思ってくれるような道路作りをしてほしい」、「やはりライフラインとしての道路が増えるということは喜ばしいし安心出来ます（それに北杜市だけの話だけじゃないですからね…）」、「北杜市のブランドを高めていけるような道路プランを期待しています」という言葉に表れているように、最終的には北杜市の自然環境やすばらしい景観を守り、活かすような質の高い道路に対する期待の声が多数出される結果となったことを報告させて頂きます。